

読書についてのアンケート調査結果

□対象：小学校・義務教育学校 5 年生、中学校 2 年生・義務教育学校 8 年生、高等学校 2 年生（高専含む）

【概況】

- ★小学・中学・高校生の 4 人のうち 3 人は、本を読むことが「好き」又は「どちらかといえば好き」。
- ★直近 1 か月の読書量について、小学・中学・高校生のいずれも「1～3 冊」が最多。
- ★高校生の不読率(直近 1 か月で本を読まなかった者の割合)が高い。
- ★電子書籍での読書は、小学生は 7 割、中学・高校生も 3 人に 2 人は「読まない」。
- ★電子書籍を読んでみたいかどうかの意向については、中学・高校生で「読んでみたいと思わない」と回答した割合が「読んでみたい」を上回った。

＜読書について（マンガ、雑誌を除く紙の本）＞ 円グラフ参照（※印については棒グラフ参照）

- 小学・中学・高校生の 4 人のうち 3 人は、本を読むことについて「好き」又は「どちらかといえば好き」と回答。4 人に 1 人が「嫌い」又は「どちらかといえば嫌い」と回答。
- いつ頃から好きになったかについては、特にいつ頃からという傾向は無く、幼児の頃、小学校低学年の頃、小学校高学年の頃及び中学生の頃と、いずれの時期からも読書が好きになれる傾向にある。
- 本が好きになったきっかけとして、「家に本があった」と回答した割合は、小・中学生で最も多く、高校生でも「わからない(なんとなく)」の次に多かった。
- ※読書が好きになった時期について、「保育園や幼稚園のころ」と回答した児童・生徒のうち、「家に本があった」「読み聞かせをしてもらった」と回答した割合は、他に比べて高い。
- 読書が嫌いな理由は、小学・中学・高校生のいずれも「読むことが面倒くさいから」が最も多い。
- 本を読むときや場所について、小・中学生は「学校の朝読書や図書時間に読む」という回答が最も多いが、高校生は、場所については「自分の家や友達の家」、読むときについては「物語などを楽しみたいとき」が多い。
- 本の入手方法は、小学・中学・高校生のいずれも「買う、買ってもらう」が最も多く、次に「学校の図書館や学級文庫で借りる」が続く。
- 直近 1 か月の読書量については、小学・中学・高校生のいずれも「1～3 冊」が最も多い。なお、高校生で「0 冊」と回答した生徒は、約 4 割。
- 直近 1 か月のうち本を読まなかった理由として、小・中学生では「本を読むことが好きではないから」が最も多かったが、高校生は「他のことで忙しかったから」が最も多かった。
- マンガ・雑誌を「読まない」と回答した割合は、小学生 13%、中学生 12%、高校生 16%であった。
- ※1 か月の読書冊数が多い児童・生徒はマンガ・雑誌もよく読む傾向にあり、特に中学・高校生で「10 冊より多い」と回答した生徒が、マンガ・雑誌を「よく読む」と回答した割合はともに 7 割を超えた。

＜電子書籍について（マンガ、雑誌を除く。）＞ 円グラフ参照

- 読書の習慣について、小学生の 7 割は「読まない」と回答し、「よく読む」は 1 割弱となった。中学・高校生も、全体の約 3 分の 2 が「読まない」、「よく読む」は 1 割弱となった。
- 直近 1 か月の読書量は、小学・中学・高校生のいずれも「1～3 冊」が最も多い。
- 電子書籍をどんなときに読むかについては、小学生は「興味を持ったことについて知りたいとき」が最も多く、中学・高校生は「物語などを楽しみたいとき」が最も多い。
- 良い点はどこかの設問に、「いつでも好きなときに読めるところ」が小学・中学・高校生のいずれも多い。

- 読んでみたいかどうかの意向については、中学・高校生で「①読んでみたいと思わない」「②わからない」「③よんでみたい」の順になり、割合も概ね同じような傾向となった。
- 読みたいと思わない理由のうち、「紙の本が好きだから」との回答は、小学・中学・高校生ともに約 4 分の 1 となり、「目が疲れるから」といった身体的理由を挙げた者は、小学生で 20%、中学生で 24%、高校生で 27%となった。

<マンガ・雑誌について> 円グラフ参照

- マンガや雑誌を読む頻度について、「よく読む」が小学生と高校生はともに 41%となり、中学生では 50%となった。
- 情報端末を使ったマンガ・雑誌の読書について、「よく読む」と回答した割合は、小学生 15%、中学生 27%、高校生 41%となり、年代が上がるにつれて利用頻度が高くなる傾向となった。